

今、教育委員は！

平成 27 年 1 月
教育長 糊澤 晴樹

皆さん新年おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

学校では、「まとめの3学期」がスタートしました。「まとめる」という行為は振り返ることから出発するかと思いますが、自分づくりの課題をはっきりさせたら、どうやってその課題を解決・改善するか策をもつところまでいかないまとめたことにはならないように思います。

目指すところに策をもって向かう…これこそ「希望・展望」の大事な中身になるのではないのでしょうか。

以下、元旦～正月7日の三つのできごとですが、新年のスタートという節目とも重なって大変心動いた事例を紹介します。

◇ 元旦マラソン中止 → されど、…

今年の元旦マラソンは、路面凍結による危険が想定されたため、残念ながら中止させていただきました。しかしながら、1年の計は元旦にありということで寒中のマラソンから新年をスタートさせようとして申し込まれた方々が 183 名おられました。

中止にはなりましたが、自ら厳しい選択をされ挑戦しようとするその心意気、姿勢に有難い刺激をいただきました。来年は…。



〔新成人の意見発表〕

◇ 佐久市成人式(1月3日)での新成人の頼もしい姿

謝辞を述べられたのは両澤成人氏でした。

「より自由な行動をとることが可能になるが、そのことは同時に、より大きな責任と義務が生じる」という考え方を頼もしくお聞きしました。そして、「自分が今日あるのはご指導くださった先生方、友人、深い愛情を注いで育ててくれた家族のおかげ…」と感謝の気持ちを心に刻んでおられる若者の姿はさわやかでした。

お二人の意見発表が続きました。

医師を目指して勉学に励む三浦遼太郎氏は、「夢を持って生きる」と題して発表されました。夢をかなえるためには苦境を乗り越える努力が必要で、そうすることが自分を生き活きと輝かせることになるのだという考え、また未来の社会を担っていくのは自分たちであるという深い自覚のほどを熱く語ってくださいました。



〔成人式の会場〕

助産師を目指して看護の勉強に打ち込む野村香菜子氏は、「大切な人を守るために」とのテーマで、ご自身の体験を基に貴重な発表をしてくださいました。病と闘っている患者さんから逆に元気もらったことや、佐久市出身を語ると「地域医療の最先端の市だね」と返されて、先人のすばらしさに頭が下がるとともに郷土への誇りが膨らんだというお話。命の誕生にかかわろうとする若者の真剣な生き様に私も誇りを覚えました。

◇ 高齢者大学でお話させていただいたときのこと(1月7日)

私の拙い話に、目を輝かせてうなずきながら聴講される先輩諸氏を目の当たりにして、「学不老」という孔子の言葉が浮かびました。私にとっては、この時の60分は半分ぐらいに感じました。

昨年五月に教育長の職を拝命してから、折に触れて学ぶ意欲を引き出すことの重要性に言及してきましたので、身を乗り出して「前のめりに学ぶ」、「学不老」の皆様と出会わせていただき感慨ひとしおでございました。

高齢者大学に学ぶ皆様から、求めて学び、学び続ける姿勢というのは、人間が人間らしく生きる営みなのではないかと感じました。



[高齢者大学の会場]